

DIRECTFORCE の情報紙

# DF NOW

2010年3月発行 NO.13

詳しくはDFホームページ <http://www.directforce.org> をご覧ください



牧野守さん(美術同好会)の版画「二月堂への道」

## 第17回 ディレクトフォース会員総会

### 新体制で臨む

### 2010年度発展と充実のための基本方針

松村洋代表

第17回ディレクトフォース会員総会は、2月5日に学士会館で会員約200名が出席して開催された。松村代表、児玉事務局長並びに各事業部長からディレクトフォースの新しい体制、最近の活動状況、今期の業績、および今後の活動方針について報告・発表があった。本報告では、松村代表の今後の方針を中心にまとめた。(当日のプレゼンテーションに使用された資料はホームページに掲載)

#### ■現状報告

昨年10月30日の社員総会、理事会を経て、11月より表1のような陣容で新体制がスタートした。

会員数の推移は表2に示したとおりだが、ただ、入会累計者数の3割弱に当る方が退会しないし休会していることをどのように読むかは一つの問題である。期待して入会されたこれらの方々と、事務局の努力にもかかわらず相互の間にギャップが出てくるのかもしれないという意識を持つ必要がある。

また、会員の会への参加状況は表3に示している。

会員がどのような分野に興味を持ち、活動しているかを示す数字である。事業分野は会員の知見や経験が一番生かされる活動であり、協力いただいた会員に報酬をお支払いしている分野である。

全体の構造として事業分野が約600名、部会が600名弱、共に会の活動の母体となる分野であり、会員の皆様にぜひどこかに参加していただくようお願いしたい。

また、本年8月までの収支予想は表4に示した。

表1 新体制の陣容

●一般社団法人ディレクトフォース	
代表理事	松村 洋
理事	長富祐一郎(世話人代表) 水野 勝誠(初代表理事) 江島 誠(株パソナ監査役)
副代表	河村 肇尚(前事務局長) 渡辺 尚(株パソナキャリア社長)
事務局長	児玉 亨
事務局	常勤6名・非常勤4名
●(株)DF マネジメント	
代表取締役	松村 洋
取締役	渡辺 尚 石田正則(株パソナ取締役常務執行役員)
事務局長	児玉 亨

表2 会員数の推移 (1月現在)

入会累計	761名
年間入会者数	約70名
退会・休会者数	216名
実会員数	545名

表3 会員の活動状況

分野	延べ人数
事業	
コンサル	200名
アカデミー	80名
求人協力・再就職	100名
ベンチャー	220名
部会	
監査役部会	150名
技術部会	60名
ベンチャー部会	130名
環境部会	200名
勉強会	130名(月)
研究会・小研究グループ	30名
同好会	270名

表4 収支状況 (単位百万円)

	前期比
収入	▲17%
(会費)	12
(事業)	110
支出	▲20%
(経費)	69
(会員への報酬)	52
	△2%



10年度方針を発表する松村代表

一般社団法人としては利益だけを目的とするものではないが、ディレクトフォースが自主的な運営を行っていくためには財政基盤を強くする必要があります。基金とこれまでの剰余金とあわせて39百万円の基盤があるものの、事業収入の半分を占めるコンサルの収入が減れば健全な財政運営を損なわれるおそれがある。それだけに今後会員の皆様に事業運営への更なる協力をお願いしたい。

#### ■今後の発展・充実のために取り組むこと

① ディスクロージャーの徹底  
情報開示の一つの結果として、ホームページへのアクセス数が2008年の28,000件から2009年には46,000件と約70%増加した。ホームページの外部への開示を進め、ディレクトフォースの全体像を一般の方に正しく認識していただけるように

② 成功報酬  
事務局からお願いした業務に関して得た報酬を会員の皆様に70%お支払いするのが基本的なルールであるが、従来この金額が大きくないとメンバーを変えて頭切りのケースがあったが、これからは会員の皆様には金額がどんなに大きくなっても70%お支払いするシステムにする。

③ 会員委員会、情報の掘り起こし  
退会者、休会者が216名、入会者の3割弱あることに関して、もし事務局との間にギャップがあるとしたら、これを埋めるため会員委員会(仮称)を設けて、コミュニケーションを良くしていきたいと考えている。



総会後の懇親会でゲスト講師も交えて懇談

10名ぐらいの少人数のグループの方にお願ひして、半年間ぐらい継続的に会員と事務局との対話を続けていき、会員の考えや希望を定量的に観測することにしていきたい。

また情報の掘り起こしについて、出身企業単位あるいは業界単位で10人15人集まっていたら、人脈紹介のお願いをする方が焦点を定めやすいと考えるので今後ご協力をお願いしたい。

④ 事務局の運営  
事務局員のローテーションは3年をめぐりにしているが、まだ完全には実現していない。特殊な事情があったりして若干のずれはあるが、基本的にはこの考えにしたがってローテーションを進めていく。

後任者の人選については絶対的な基準があるわけではないが、やってやるという意欲を持っている方、各事業

## 2010年度部会方針

DFは松村新体制の下、2010年度を迎える。DF活動の中心的存在である各部会の10年度の活動方針を部会担当者が表明。

### 環境部会

#### DF社会貢献活動の柱に

児玉 亨

#### ■これまでの活動

環境部会は今年で発足4年目を迎えます。これまでは環境問題に関心をもち、DFが自主的、自発的に活動を行ってきた。

その目的は会員が環境問題への関心を高め、理解を深めることにあり、同時に様々な環境問題に関する啓蒙活動を行うことや自ら環境保全活動に参加することで、地球環境の美しさとその持続可能性を後世に継承していくのにも少くも寄与、貢献できればということでした。

具体的には環境に関する勉強会、セミナーを開催したり、自然環境保全の活動として草津の国有林保全活動、中越の当間山の遊歩道整備あるいは富士山学びの森で枝打ちや下草刈りを行いながら森林保全活動の実践・体験をするといった活動を行ってきました。

#### ■これからの活動のありかた

環境への取組みは、社会貢献を目指すDF活動の大きな柱として捉える必要があることを確認し、このたび新たに正式にDF組織に組み込んだ部会にすることが決まりました。これまでと同様に自立的、主体的に活動することが求められますが、DF事務局が積極的に関ることにより、活動の更なる進化を図ることになります。

今後の活動は、会員の関心を更に高めると同時に一般の方々への啓蒙にも資する勉強会やセミナーの開催、環境経営の普及支援の活動に加え、さらには児童、学生など青少年向けの環境教育の分野に寄与することにまで踏み込んだ活動を行うことを目指しています。

これまでも、環境分科会として①環境学習、②時事セミナー、③環境教育支援、④自然環境保全、⑤環境経営研究の5つの分科会がありました。当面

この組織を踏襲して各分科会の更なる活性化を図ることになります。そしてこれら5つの環境分科会の連絡会を設けて相互の情報共有と協力を進める一方、DF事務局環境問題担当者と同好会を束ねる連絡会議議長が連携を密にして活動していくこととなります。

#### ■会員の積極的参加を期待

これまでも部会が主催する環境イベントの案内を送りしてきましたが、このたび環境部会が新しくスタートを切るに際して、改めて皆様にアンケートを実施する事にしてあります。

また、環境部会のイベントに参加するだけでなく、諸活動を積極的に推進していただける方には、環境部会員としていづれかの分科会に入り、イベントの企画、実施に参画願いたく、別途案内をさせていただきます。

#### 監査役部会

#### 優秀な監査役を供給

坪井 莊一郎

■社外監査役が半数以上必要に  
DF監査役部会研修会は、現在実施している第5クールで満5周年を迎えました。

平成12年以降、我が国の企業をめぐる経営環境の激変に対応するために、明治32年の成立以来の商法の大改正が何度か行われてきました。その改正の一つが監査役制度の改正で、社外監査役が半数以上必要となりました。

この改正は、経営マネジメントに精通し識見に富むDF会員の絶好の活躍の場となることを確信し、これから監査役を目指す会員を対象に研修会を実施して、「自己啓発・研鑽」を目的とした監査役部会を平成16年9月にスタートさせました。

#### ■人間力のある監査役を目指す

研修カリキュラム実施にあたり、「人間力のある、時代の変化に柔軟に立ち向かう監査役を目指す」を監査役部会

の理念に掲げました。研修会は、基礎編、応用編、小研究グループの3本柱で、講師には、実務経験があり監査役業務全般に詳しい部会会員及び外部著名なエコノミスト・弁護士・公認会計士の方々にお願いして、監査役業務のみならず経営全般にわたるテーマを取り入れて実施しています。

具体的には、監査役業務全般、会社法、金融商品取引法、内部統制、新国際会計基準の概要、戦略的経営・財務管理、世界金融システム、パネルディスカッション等。小研究グループでは「企業不祥事と監査役」をテーマにけんけんがくがく議論を重ねております。

■5周年記念講演会も実施

本年4月には、5周年記念講演会を予定し、今話題となっている公開会社法について「なぜいま公開会社法か」と題して、特定非営利活動法人全国社外ネットワーク代表理事田村達也氏のご講演と小研究グループの研究発表を行います。

第5クール研修会の締めは、再就職して活躍している現役監査役に聞く恒例の「パネルディスカッション」です。研修会登録メンバーは現在150名で、毎回の発表を質疑応答が行われており、参加者アンケートでも講師の講演内容は大変素晴らしいと好評の質が高いと好評を博しています。これはひ

勉強会レポート

■10月勉強会

「グローバル化と人口減少時代の農政改革」



山下一仁氏  
東京財団・経済産業研究所  
上席研究員



塚本勝巳氏  
東京大学  
海洋研究所教授

■11月勉強会

「ウナギ…大回遊の謎」

とえに、研修会の運営にご尽力いただいている世話役並びに研修会に参加して盛り上げていただいている会員のご協力・ご支援の賜物であると感謝している次第です。

技術部会

教育、ビジネス支援  
技術史編纂

保坂 洋

談話風発、相互理解

技術部会は、技術が好きで人との語らいが大好きで、そして酒を愛するメンバーの集まりです。理工系ばかりでなく文科系出身者もいて多士済々。隔月に行われる例会は、講演と、近隣の居酒屋での懇親会がセットになっています。講師は主に部会員が務め、貴重な自らの体験談「私の履歴書」や「トピックス」を語ります。時に外部講師を招いての講演や工場見学を加えることもあります。勉強した後は舞台を居酒屋に移して談話風発、お互いに理解が深まり、力をもらって楽しいひと時です。午後のひと時は飽き足らないとの声が高まり、秋に初の一泊合宿を検討しています。

大学講師、出前理科実験

部会では分科会的な活動も進めています。

■11月勉強会

「地球温暖化問題と21世紀の気候」



丸山茂徳氏  
東京工業大学  
大学院理工学研究科教授

■12月勉強会

「鳩山政権と日本の将来」



田勢康弘氏  
元日本経済新聞社特派員・論説委員  
早稲田大学大学院公共経営研究科教授

従来から懸案のビジネス支援活動は、何とか成果を挙げたいとの思いで継続します。

昨年からはじめたDFアカデミー主催のつくり大学での講座「産業構造論」には多くの部会員が講師を務め好評でした。今年も継続が決まったので、改善点を議論してさらに効果的な授業内容にするべく一同張り切っています。

日本トルコ中央アジア友好協会での講演  
中央アジアの国々の将来を担う若き学生達

向坂勝之



DFアカデミー事業部は、日本トルコ中央アジア友好協会（JATCAFA）の要請を受け、今回7回目となるトルコに留学中の中央アジア学生向け講演会に、会員の向坂勝之氏を講師として派遣しました。同氏は1月23、24日にイスタンブールとアンカラで行われた講演会で、「鉄鋼業に見る戦後日本の産業発展」というテーマで話し、学生から熱心な質問を受けるなど日本トルコ中央アジアの友好に貢献しました。

\* \* \*

「日本トルコ中央アジア友好協会」は、中央アジアからトルコに留学している学生を支援しています。彼ら学生に「自身の実務経験を通して戦後日本の産業化につき話をせよ」と言われ、アンカラとイスタンブールに行っていました。

■1月勉強会

「自然災害から学ぶ家族主義」



長島忠美氏  
衆議院議員  
元新潟県山古志村村長

■2月勉強会

「日米同盟と日本の安全保障政策」



孫崎 享氏  
元駐イラン大使  
元防衛大学校教授

子供の理科離れを防ぎたいと始めた小学生出前理科実験は、昨年横浜開港150周年記念行事での初挑戦が大成功、その経験を活かして定例化を進めます。また経団連から依頼のある中学生出前理科授業にも今年からの開始を目指します。

新たな試みとして、昭和の復興の源泉となった日本の技術史編纂の検討にも挑戦します。

同好会ニュース

俳句同好会

第1回句会（11月5日）



蕎麦処「小川家」での句会。第2回は11月25日

コーラス同好会

堀江音楽教室とクリスマスコンサート（12月22日）



演奏曲目は「みかんの花咲く丘」他2曲

スキー同好会

上越国際スキーツアー（1月31日～2月1日）



2月27日からはヨーロッパスキーツアーに

美術同好会

第2回彩遊会展（12月21日～27日）



ご夫人8名も参加して銀座「三笠会館」で打ち上げパーティー

歌舞伎同好会

第1回鑑賞会（1月9日）



35名の参加。ご夫婦の参加が9組も

落語同好会

「桂石團治の落語を聞く会」（1月27日）



世話人・家富さん（芸名・愛子亭朝大）が前座を務める

麻雀同好会

09年度第2回麻雀大会  
小林正氏優勝（12月4日）  
年間優勝加藤氏



チーム名はDFチームタイガー

スキューバー同好会

セブ島ツアー（2月4日～9日）



遠藤さんの50本達成を祝う

新入会員紹介

入会者についての詳細はホームページを参照してください。

- |        |              |        |
|--------|--------------|--------|
| 森山 健一  | 住友金属鉱山       | 立松 伸之  |
| 岩崎 次彌  | アサヒビール       | 濱名 均   |
| 原 秀昭   | みずほ情報総研      | 恩田 吉朗  |
| 新津 重幸  | 読売広告社、高千穂商科大 | 谷口 浩章  |
| 吉澤 大輔  | 三菱商事         | 恩田 吉朗  |
| 上村 宗浩  | 三菱商事         | 佐伯 弘文  |
| 石井 良治  | 三菱商事         | 角谷 充弘  |
| 段谷 芳彦  | 丸紅           | 藤野 修二郎 |
| 和角 清   | 石油資源開発       | 佐藤 剛   |
| 小野 和日見 | 建設省          | 井邊 博行  |
| 望月 志郎  | 新日本製鉄        | 勝又 勉   |
| 横山 直樹  | 日興証券         | 原敬治郎   |
|        |              | 電気化学工業 |